

NICU 退院後の発達障害児に 対する抱括的医療施設の構想

(分担研究：新生児・乳児の退院後の在宅ケアシステムに関する研究)

研究協力者 長 島 忠 昭

要 約： 研究初年度には、NICUより発達障害退院児を迎える「新潟発達療育センター病院」の創設計画を進め、JR古津駅から徒歩数分の所に建設用地2000坪を入手した。二年目の本年は、昨年の発達療育センター中心の設計計画の上に、更に積極的な発達療育手法を高める目的で、「最重度脳障害療育病棟」や「家族構成和風病室」「展開回廊」「すこやかハウス」「滝落とし廻流式温水プール」、障害児の社会参加を目指す「露の芽学園」などの計画をも加え、「生涯療育の立場からの将来展望」を研究目的とした。(構想図参照)

見出し語： 発達障害、発達療育、社会福祉、重度心身障害児

研究方法： 1. 最重度脳障害児への積極的発達療育対応の研究：NICUよりの発達障害児に対し、その障害の克服に全力を尽すことが当センターの責務なので、これまで全くといってよい程療育が顧みられなかった、生命維持装置から離れられないでいる最重度発達障害児に対しても、私どもは、その持てる生命の輝きの可塑性に望みをかけて、さまざまな積極的療育努力を試みて来たのだが、今後は更にソフトタッチ手法から一歩進めた手法の開発を当センターの最優先研究課題とした。その中で温浴プールでのセンサー浮輪のハイテク利用や、音楽に乗せたレーザー光線の視聴覚から心理発達にまで及ぶ良影響が期待される開発手法などは別の機会に譲り、ここでは最重度児へのソフトタッチ導入

の研究項目を一部のみ並べた。1) 風の流れと自然音 2) 温冷風から温冷湿布(四肢)、3) 羽毛触覚マッサージ(口唇周囲) 4) 手背・足底経絡弱刺激、5) 草花・クリーム掌面滑り、6) 点滅発射のメリーゴーランド、7) メトロノームタッピング、8) いろいろ音叉の骨面振動、9) 関節屈伸、指弾き、10) ソフトに進めるローリング・エアトランポリン。

2. 発達障害児と老令障害者の統合療育研究：迫り来る高齢者社会への備えとして、高齢者ボランティアの療育参加を大いに歓迎するのは、その老練さが私どもを喜ばすだけでなく、高齢者自身の脳機能の活性化とも関わるのであり、そこから老令障害者と障害児との統合療育への構想が生まれて来たのである。そして療育セン

障害児の発達療育病棟」があり、両者の統合療育のため、「庭山坂落とし」や「温浴プール」なター病院の片翼には「老健法による回復病棟」が、他翼には「発達療育センター」と「重度脳

3. 家族構成和風病室：療育の初期導入は決して急いでではない。出産以来のトラブルに疲れた母子相互間に或る期間安らぎを与えるために入院当初は「家族構成和風病室」が用意され、観察期間ともなる。又、夜間や夜明けに患児の異常な啼泣に悩まされる場合、その対応として「展開廻廊」や「庭山樹木の風と光の散歩道」などが工夫されている。

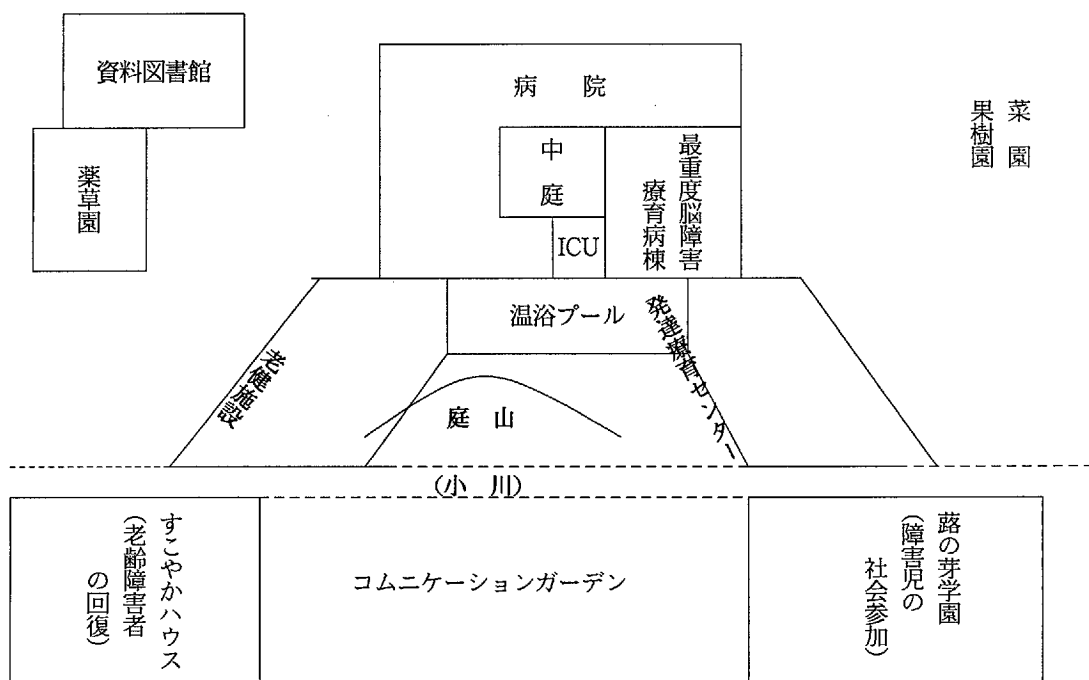
4. 在宅訪問療育：在宅訪問は、センターと患者の間の道筋を院内の廊下と心得るほど気易く往来するのである。そして、家庭に於いて祖父母の協力のもとにリズムゆたかなトリオ療育あそび（療育者－（児）－高令者祖父母）を推奨している。

5. 地元の協力：地元の協力が得られなければ

病院の存立は危うく、障害児らの将来の社会参加にも影響があり、そのため療育センター病院は、地域の健康を守りその医療要求にも充分応えるものでなければならない。その点、資金調達も含めた建設委員会が、「親の会」や「地域ボランティア組織」などから構成されていることを思うと、前記の両翼に支えられた総合病院的医療体制は患者の立場に立った明るい光に満ちたものでろう。

6. 生涯療育を目指す地域チームづくりの研究：発達障害児が重度である程、その後の発達を励ます一貫した療育フォローが大切であり、その間、医師、パラメディカルスタッフ、保健婦、教師、保母、地元関係者や自治体職員などが、親やボランティアグループなどと定期的に一同に会い、障害児ひとりひとりの発達を促す討論を交し、その児が社会参加出来る日までの息の長い関与を続けるといった地域チームづくりがセンターを中心に研究されねばならない。

療育センター病院構想図 (2000坪)





検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:研究初年度には、NICU より発達障害退院児を迎える「新潟発達療育センター病院」の創設計画を進め、JR 古津駅から徒歩数分の所に建設用地 2000 坪を入手した。二年目の本年は、去年の発達療育センター中心の設計計画の上に、更に積極的な発達療育手法を高める目的で、「最重度脳障害療育病棟」や「家族構成和風病室」「展開回廊」「すこやかハウス」「滝落とし廻流式温水プール」、障害児の社会参加を目指す「路の芽学園」などの計画をも加え、「生涯療育の立場からの将来展望」を研究目的とした。(構想図参照)